

## 令和4年度 第2回社会教育委員会議 会議録

日 時：令和4年7月20日（水）14：00～15：25

場 所：苫小牧市役所本庁舎 9階 第一委員会室

出席委員 藤島委員（議長）、北岸委員（副議長）、植田委員、大西委員、柴田委員、瀬川委員（6名）

事務局 教育委員会：福原教育長、山口教育部長、斎藤教育部次長  
生涯学習課：河本課長、斉藤課長補佐、佐々木主査

---

- 1 開会 （進行）生涯学習課長
- 2 委嘱状交付  
教育長から各委員に委嘱状を交付
- 3 教育長挨拶
- 4 委員自己紹介  
（事務局自己紹介）
- 5 議長・副議長の選出  
議長に藤島豊久委員、副議長に北岸由利子委員を選出
- 6 議長・副議長挨拶
- 7 諮問  
第六次苫小牧市生涯学習推進基本計画策定について
- 8 社会教育委員の職務等について  
次長より説明
- 9 議事 （進行）藤島議長  
（1）第六次生涯学習推進基本計画策定の進め方について  
事務局説明

<質疑>

なし

(2) 第五次生涯学習推進基本計画の検証結果について  
事務局説明

<質疑>  
なし

(3) 国・道の動向について、事務局から説明  
事務局説明

<質疑の主な内容>

委員 道の方針や国の方針について、具体化していくという視点で様々な展開がされているのだなというふうに認識しております。

資料自体が、昨日の夕方、私のところに手元に着いたものですから、実は、ほとんど目を通すだけで終わってしまっていることなので。なるほど、こういう意味だったのかということをご説明いただいてわかったのですが、率直に申し上げて苫小牧市の現状をどういうふうに認識しているのかという視点が十分なのだろうかという思いがあります。例えば子供の非行がどういう現状にあるのか、あるいはいじめや不登校等々がどういうふうな課題になっているのか、それが市民に対する広報宣伝の側面、教育の側面で、地域学習という側面でどういう到達点に立っているのかという、そういう問題意識は私、個人的には思っているのですが、実は僕は、この視点がどうも頂いた資料の範疇では欠けているのではないかなというふうに思っています。

この間、私いろいろな部署から教えていただいておりますが、例えば苫小牧市の小学校、中学校で不登校生が400人余りおられるということを知っております。それからいじめとして、学校あるいは公的機関が認定したものが400人を超えているというようなことを資料として頂いておりますが、今後、小学校、中学校の該当する人数というのは苫小牧市でいえば1万5,000人前後ですから、多分1万5,000切っているのではないかと思うのですが、そこに400人の不登校、あるいはいじめがあるというのは、実は3%に合致するので、非常に僕はびっくりしました。つまり例えばいじめが3%いるというのは、クラスに必ず1人はいじめっ子が、いじめられている子がいるという、そういう側面だというふうに思います。いじめというのが公に親が認識する、あるいは学校の先生方が相当神経を集中してもいじめを全件把握するというのは相当な困難な作業だと思うのですが、それが3%いるという現状をどういうふうに考えたらいいか。それは学校の先生方だけの努力に任せていいのかというふうな思いがあります。

それからもう一つは、依存症の問題についての現状というのは、苫小牧市では明らかになっていません。虐待、ネグレクトについての情報も実は僕たちの手元にありません。その大きな原因として、今最近注目されているのが、2015年に障害者支援法が改定されて、自閉症スペクトラムの人たちを対象にし

て、社会的にどういうふうバックアップするのかということが重要な課題として提起されているというふうに思うのですが、このところでやっぱり新たな展開をしていかないと、しかも、これから5年間という長期間に基づくスパンで考えていくときに、この問題についての提起が実はないのではないかなというふうに思っているのです。

その点で僕、資料つらつらと見ただけで、十分に僕自身もまとまっているわけではないのですが、各委員から評価された中身についてと、それから自己評価の凸凹と一致してないなというのが一つの感想と、もう一つは、新たな課題が提起されてないのだろうかというようなことを感じているのですが。

新しい課題として、5年間を認定したときに、計画をつくるに当たって苦小牧市の現状がどういうふうにあるのかということ提起いただく必要があるのではないかなというふうに思っています。というのは、苦小牧市には苦小牧市の独自の課題があると。例えばひきこもりというのが全国的にも非常に大きな問題になっていて、100万人を超えているのではないかなというふうに言われております。つまり10%の人は社会的なひきこもりになってきている。これは経済的にも非常に損失だというふうに思っていますが、苦小牧市では該当、その10%で換算していくと1,200人から1,300人いても不思議ではない水準であるはずなのですが、苦小牧市として、ひきこもりと認定されているのは40人しかないということなのです。これは何なのかなというふうに正直思います。もちろん東京などの大都市圏と苦小牧のような中都市とは違った条件、当然あると思いますので、一律に10%苦小牧いるはずだというふうには、僕は考えているわけではないのですが、それにしても40人という数字は実態を把握しているのかどうなのか。

もう一つは、その人たちが公になっていないのだとすれば、その原因はどこにあるのか、それをバックアップする、支援していくために教育委員会として、あるいは市の行政としてどういうふうバックアップしていくのかという計画を立てていかないと、旭川市でネグレクトが起きて、小さな子供を置いてお母さんがパチンコやっているということ、今問題になっていますが、苦小牧でこういう問題が本当はないのかどうなのかということも実はそういうチェック機能がない。それはもちろん行政の責任でもあると思うけれども、同時に市民のレベルでもそういうことを支え、支援するそういう課題をどういうふう遂行していくのかということ計画化する必要あるのではないかな。そういう視点が今日ご説明いただいた範囲、範疇では十分とは言えないような気がしています。

議長 第五次のときまとめるときに事前にアンケートだとか、統計だとか、そういうのを提示されたのですよね。提示されたものしか我々分からないので、その中で第五次の計画は出来上がったということなのですけれども、今の大西委員のご意見に対して、事務局側はどうでしょうか。どこまで対応できるのか。ちょっと細かい意見まで、多分出たと思うので。

斎藤次長 すみません。今委員からのご指摘あった点はすごく大きな問題で、市としても、教育委員会としても、例えば不登校の問題ですとか、いじめの問題とかと

いう、ひきこもりの問題もそうですけど、大きく福祉ですとか学校側と連携してやらなくちゃいけないという大きな課題ではあります。

その中で生涯学習として、社会教育としてやるべきところというのをこの計画に盛り込んでいくことになると思いますので、例えば不登校の問題であれば学校側が対策プランというのをつくっていたり、福祉のほうで児童虐待の話をしていたり、そういった総合的な連携をしながらこの生涯学習の計画というので、例えば居場所づくりですとか、家庭教育の分野でどう絡んでいくのか、そういったところをこれから検討していくことになると思うのですよね。その上でも全く関係がないわけではなくて、今現状どうだというのを押さえるのは非常に重要だと思いますので、何らかの資料を出しながら、また中身検討していければいいなといったところでよろしいでしょうか。

委員 今日突然の質問で、具体的な資料なしで完璧な回答くださいねという話は無理な話なので、お話はそのとおりでいいというふうに思います。

ただ、僕、非常に重要だというふうに思っているのは、生涯教育という側面から考えていくときに、今の子供たちを育てる視点からお母さん、お父さんを孤立させないために地域づくりをどういうふうにしていくのかということが実はすごく重要じゃないかなというふうに思っています。例えばネグレクトという極端な例を取らなくても発達障害で人とコミュニケーション取れない、あるいはちょっと変わった子がいると、そういう子供たちがいじめや、あるいは極端にいくといじめる側になっていったときに、お父さん、お母さん何やっているのよ、こういうふうなことになりかねない状況というのはあると思うのですね。だから、そういう意味で地域教育として子育てをどうしていくのか、問題をどういうふうにフォローしていくのかという市民的な合意をつくっていかないとかなかなか、子育てというのは、今は僕たちの時代よりももっともっと難しくなっているのではないかなというふうに思っているの、あえて提起させていただいたということです。

議長 確かに、今スポット的に見てはいけないという、地域と学校と家庭、それぞれがそれぞれの役割、それと連携を持って、きちっと子供たちを育てていかなければいけないというのは、これからの次世代に向かった子供たちを育成するためには必ず必要不可欠なことだと思います。

その上で社会教育委員ができること、範囲が必ずあると思うのですよね。あまり学校教育の中には入ってもかえっておかしなことになっちゃいますので、その辺をうまくこれから出てきた資料も見ながら時間が許す限り、なるべくコンパクトにまとめて結論が出せればいいかなというふうに思っていますので、それでよろしいでしょうか。ありがとうございます。

ほかにご意見はございますか。

委員 今大西委員のほうから非常にいろいろな問題点の指摘は、本当にそのとおりでいいと思いついていたのですが、ただ、今ここにいらっしゃる教育委員会の、要するに答えるメンバーの、この五次計画全ての分野、要するに役所の中の男女平等参画から、社協から、全ての分野が網羅されていますよね。

それを私たちが評価するというのは、非常に知らない分野もあるのですよ、現実的にはね。ですから、スポットを当てて、このことはどうだ、このことはどうだというのはすごく時間も限られているので非常に難しい。ただ、おっしゃることは本当にそのとおりだと思います。

ただ、私、一つだけそうだなと思ったのは、国と北海道の動向は分かるけど、苫小牧としてのこの五次計画から六次に向けての総括というか、方向性というのは、それはある程度必要ではないかなという姿勢として、要するにこの社会教育委員としての立場での姿勢としては必要なかと思ったのですけれど、ただ、具体的な例になると、これは各省庁またぐ、非常に難しい。私は、地域、例えば町内会とか、今は婦人、女性団体もやっていますけれど、今本当に地域力が大きな課題だと思うのです。町内会のときも民生委員さんに様々な方がいるけど、個人情報や災害一つに取っても全部障害になるし、ぱっと助けることもできない。それがひきこもりやいろんなことも、だから一つの切り口で全てのことや範囲が網羅されるというのもあるので、これは、ですから大本でちょっとまとめていただいてというか、個別の答えというのは非常に難しいかなと思いました。

議長

ですから、例えば今許される範囲の資料を、知識として我々が読んでおいて、それを社会教育の中で反映されるということがあると思います。ですから、学校教育と社会教育というのは、もう切っては切れない仲にもなっていますので、どっちかがどっちへ入り込むという、実際学校の中でもそういうのは、もう起こってきて、起こっているといたらおかしいな、範囲がお互いに連携しながらやっているものというのがありますので、いや、それは駄目です、要らないですよということは絶対あり得ないので、そういうことで事務局側もお願いしたいと思います。

それと、今中央教育審議会の諮問と道の動向ということで、基本構想が出ていますけど、これホームページに大体全部出ていることですよ。特に中央教育審議会のほうは6月に白書が出てますので、帰ってその白書を、白書ももうかいつまんでしか書いてないので、その前の第11期というのはありますので、それを読まれると、ここの項目一つ一つより詳しく載ってますんで、それをぜひ参考にして読んでいただきたい。

それともう一つ、基本計画を策定するに当たって、ほかの都市、もう既に基本計画どんどんつくっていますし、新しいもの、それと古くて基礎になるようなものもありますので、その辺もちょっと時間の許す限り参考にしていただいたほうがいいのかと思います。

それでは、ほかにご意見、ご質問はございますか。

委員

2つ項目として、ぜひ検討していただきたいというふうに思っているのがあります。

1つは、依存症の問題です。これを社会教育としてどういうふうに広めていくかという。それは依存というのは、薬物も含めて、あるいは人的依存だとか、あるいはゲーム依存だとか、そういう問題について、やっぱり地域でどういう

ふうと考えていくかという点で、やっぱり教育委員会がどういうふうな心積もり持つのかということの一つ検討していただきたい。1点目です。

2つ目は、繰り返しになって申し訳ないです。やっぱり発達障害についても地域の理解、発達障害者を、支援を必要とする個性として地域でどうやって見守っていくのかという視点での教育委員会の果たす役割ということについて、ぜひご検討いただきたいということ、この2つ要請させてください。

議長 多分、いや、どこまで踏み込めるか分かんないですけども、僕は宇宙少年団所属していますけども、宇宙少年団で実は全国を歩いて講師をしている。その中に発達障害とかの項目もあるのですよ。まずその前に、子供の発達特性というか、その辺をほとんど、自分が子供のときと今の子供たちともう社会情勢全く変わってますので……。

委員 そうですね。

議長 自分の子供のときのほうを基準にしたら全然駄目ですよ。ですから、国民みんながと言ったらおかしいですけども、地域の人みんながそれこそこういう部分の発達特性、子供の発達特性というのを勉強しないととってもじゃないけど、今より、もうとってもいいことを言われているのですけれども、理解しろ、勉強しろと言ったってまず無理だと思うのですよね。だからその辺の仕掛けとこのをつくり出すのは社会教育の役割かなという気がします。そのためにいろんなこと仕掛けていくというか。だから、なるべくそういう、今大西委員の言われたような直接ストレートでやるのではなくて、何とか、何というのだろう、もう目を開けてもらって応援してもらいたいなというような体制でないと難しいのではないかなと思うのですよね。どうですかね。

委員 議長言われるとおりでというふうに思います。

ただ、こういうことだと思います。一遍に解決するわけがないのですよ。やっぱり5年、あるいは10年に、そういうスパンで考えて、いろいろ市民に働きかけていく継続的な積み重ねをどこでつくっていくのかという視点だというふうに思います。議長言われたとおり、全く同感です。

議長 その辺うまく答えは見つからないですが、少し進める中でちょっと機会があったらそういう話を、ポイントポイントで多分出てくると思いますので、お話ししようと思います。

#### (4) 第六次生涯学習推進基本計画の方向性について 事務局説明

<質疑>

なし

#### 10 その他

次回会議の開催時期について説明

閉会 15時25分終了